

13 「NEXT吉川」

◆「次世代の為に美しい未来を！」を合言葉に、市民と議員の共働での街づくりを目指す「NEXT吉川」。

◆子供達も参加出来る「和菓子作り」や「天体観測会」「田植え体験」などのイベントや、「県政・市政報告会」までを企画しています。「政治？よく分からない」「地域とのつながりがなかなか持てない」。少し前までそう思っていたようなパパママがいっぱい！子供達の為に、街の今を知り、力を合わせて未来を作りませんか？皆さんのご参加をお待ちしています！(“)



様々な企画を展開中！ぜひ参加ください！

14 「吉川ビジョン政経塾」

◆日本・世界を舞台に様々な分野で活動しているリーダーや専門家を講師に招く「吉川ビジョン政経塾」では、「地方政治のあり方」「自治体財政の今後」「エネルギーの地産地消」等、地方自治のあり方から商工農、教育、街づくりなど実践的なテーマを取り上げています。◆多くの時間を吉川市内で過ごしている市民のみならず、吉川市外、埼玉県外に通勤している市民の知恵とキャリアを吉川市の発展に生かすための、Think&Act型の政経塾。議員インターンシップとも連動し、明日の吉川市を担う若い人材を育てています。◆大学生、高校生の参加も募集しています！(“)



地方自治のあり方について

17 吉川市の諸々

【水道水フッロリデーション問題】

◆虫歯予防策として水道水へのフッ化物添加を進めようとしている吉川市に対して、反対する市民が約7000人分の署名を戸張市長に手渡しましたが、「フッロリデーションの安全性や有効性は実証されており、今後多くの市民に理解が得られるよう正しい情報の提供に努めたい」と戸張市長がコメント。そのニュースが先日NHKでも取り上げられました。そこで宮崎歯科の宮崎利彦先生にお話を伺いました。

Q) 先生のお考えをお聞かせ下さい。

A) 小さな子を持つ親としても反対です。

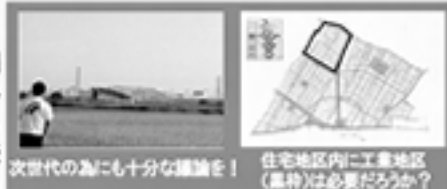
Q) その理由は？

A) ①水道水は極めて「公共性」が高いものです。よりピュアであるべきで、フッ化物が添加された水を飲みたいくない人にとって選択の余地がなくなります。②副作用としてのフッ素症の「危険性」が否定出来ません。軽度の歯牙のフッ素症は必ず出ます。③子供の虫歯の本数が減っている現在、フッロリデーション導入は「必要性」が極めて低い。この3点が大きな理由であり、こうしたことが市民に周知されていないことや、責任の所在がはっきりとされない吉川市の現状においては、歯科医師としても反対です。

◆以上のような「市民の思い」や「専門家の考え方」などがある中、なぜ市が進めようとするのか疑問です。皆さんからのご意見をお待ちしています。

【吉川美南駅・東口開発問題】

◆一面の田んぼが続く東口側の開発計画が急ピッチで進められています。先日は「地権者説明会」も開かれましたが、この地区の開発は、「吉川市の顔」を作るといっても過言ではなく、吉川市の未来にとって最大のチャレンジとなるもの。地権者さん達の財産を大事にすることを踏まえながら、同時に吉川市全体を見つめて、開発のビジョンをうちたててゆくことが大事です。市全体の価値を高めることは、長期で見れば地権者さん達にとっても、また次世代の市民にとっても必ずプラスに。だからこそ、①美南駅の反対側へアクセスする道路や、吉川美南高校へ向かう道路などを含めた交通ビジョン、②住宅予定地区に工業地区は必要か？、③隣接地に出来る基地の説明、④今後の人口動態を踏まえたとき、住宅地を作りだすだけでよいのかどうか、⑤新庁舎や給食センターが建設される予定のいま、吉川市施行で全体約174億円(うち市負担約44億円)の事業のあり方や平均減歩率50%の是非などもっと説明が必要ではないか。いや、それ以前に、開発ビジョンの作成こそを地権者さんを含めた吉川市民の多くと共有しなければならないのではないかと強く感じています。吉川市の未来を決める大事な事業。みなさんからのご意見をお待ちしています。



次世代の為に十分な議論を！

住宅地区内に工業地区(車特)は必要だろうか？

15 被災地支援

◆あの日から様々な形で続けている支援活動。友人、知人も多く住む街のことを簡単には言葉に出来ないけれど、行動として出来ることはまだまだあります。個人への直接支援からは始まり、自治体間の支援、そして地元吉川市へのフィードバックetc..

◆先日も、福島では飯館村の菅野村長や県職員の方々から、そして陸前高田では校長先生、自治会長さん、仮設住宅入居者の方々等からお話を伺いました。今後も出来る限りの支援活動を続けてゆきます。



自治会長さんから当時の様子を 菅野村長とこがねの街づくりに関して

16 議員インターンシップ

◆学生や市民が、休日や長期休みを利用し、議員活動に同行する「議員インターンシップ」。その受け入れを行っています。◆「政治って何？」「政治家ってどんな活動をしているの？」「政策ってどうやって作られてゆくの？」「政治家になりたい！」etc ◆「市民との協働」や「被災地支援」なども含めた、中原恵人の日々の議員活動に同行し、自ら「生の政治」を体験する中で、そうした疑問や思いへの答えをつかんでみませんか？



今回のインターンシップが「大学生のNくん」

【大久保クリニック問題】

◆これも朝日新聞などで取り上げられ、今なお子供をかかえる母親や多くの女性の負担となっている「大久保クリニックでのワクチン接種・ガン検診問題」。この問題を6月、9月の議会で取り上げている稲垣茂行市議会議員にお話を伺いました。

Q) 現在の状況は？

A) 市の指定医療機関から除外されて半年が経過しましたが、市内唯一の産婦人科である大久保クリニックで今までの通りの公費予防接種を受けることができません。市は、『区域外申請(事前に申請・立て替え払い・請求が必要)』で受診できるとしていますが、乳幼児を抱えるお母さん方に大きな負担と不安を強めています。公費助成の子宮ガン検診にはそのような制度がありませんので、他の産婦人科へ行くしかありません。異常事態が続いています。

Q) なぜこのような事になっているのか？

A) 医師会内部での意見の対立から、大久保医師らが医師会を除名された(現在その処分を不服として係争中)ことを理由に、吉川市が「予防接種は医師会と契約しているのだから、構成員でなくなったから委託出来なくなった」と答弁していますが、医師会との契約については、市の条例や要綱もなくその根拠は不明確です。また、事態を打開しようという姿勢が見えません。「緊急対応として、除名された医療機関と『個別契約』を結んだらどうか」との私達の提案には、『医師会との信頼関係を失うばかりか、今後の協力がある』と公正取引委員会の立ち入り調査を受けた(現在も調査中)医師会との信頼関係がどのようなものか分かりませんが、市は医師会内部の問題や対立には中立的立場で臨むべきです。医師会内部のゴタゴタのツケを市民に回すべきではなく、「市民の保健医療を一番に考える」べきだと思います。

Q) 市議会での対応は？

A) 先日、「これまで通りの公費助成を！」との要望書と約5700人の請願署名が市に提出されました。議会へも、『大久保クリニックで公費予防接種と公費助成の子宮ガン検診が受けられる様に求める請願』が出されましたが、賛成少数で不採択となりました。なぜ本当に困っている女性たちの声に耳を傾けないのか、なぜこの異常事態を放置し続けるのか。私は、吉川市そして市議会議員の良識が問われていると思っています。



朝日新聞記事